

西田幾多郎博士作品を吟ずる

第二十一回全国吟詠大会からの指定吟題

① 秋夜読書

独り坐せば 寥々として『秋気涼し』
案頭』巻を披けば 感方に長し』
隙風来り襲つて『燈光乱れ』
明月』輝々として 草堂を照らす』

② 秋郊聞笛

秋郊の風景』滿眸晴れたり
寂寞として『遙かに聞く 玉笛の声』
尤も憶う 今宵』感慨多しと
他郷』忽ち起こす 故郷の情を』

③ 春園歩月

地上の清光』霜を踏むが如し
夜遊ぶ』恰も仙郷に到るに似たり』
好きかな 春月』花上に輝けること
一苑』東風に万樹香し』

④ 秋夜故郷を思う

夜風は』颯々として涼し
明月は』白きこと霜の如し』
独り坐す』書窓の下
頭を』低れて故郷を思う』

⑤ 無題

歲月』流水の如く
又』春色新たなるに逢う』
寒梅』伴侶と成す
天地』一閭人』

⑥ 湘南落日

青山』海に連なつて尽く
潮水』天に接して流る』
落日』煙雲の外 只』富岳の浮ぶを見る』

⑦ 白砂青松

砂白く』松青々 海青く』波白々』
古城』山下の路 日々』往來と為す』
鎌倉雜詠

⑧ 鎌倉雜詠

故人』半ば鬼と為る 生者』果たして如何』
昔日』同遊の地 花に對して』感慨多し』

⑨ 絶句

数箇の春鶯』柳辺に鳴く
数行の』過雁 蒼天を渡る』
窓に含む』東岳の好春景
門に泊す』前川万里の船』

⑩ 愛宕山

愛宕山』入る日の如くあかあかと』
燃し尽さん残れる命』
(くりかえし)

⑪ 吾死なば

吾死なば』故郷の山に埋れて』
昔語りし友を夢みむ』
(くりかえし)

⑫ 人は人

人は人』吾は吾なりとにかくに』
吾行く道を吾は行くなり』
(くりかえし)

⑬ わが心

わが心』深き底あり 喜も』
憂の波もとどかじと思ふ』
(くりかえし)